質疑応答

2026 年度第 2 四半期決算および経営計画進捗説明会

日時：2026 年 10 月 30 日

（高機能プラスチックスについて）

Q：【資料 P.19】エレクトロニクス分野について。2Q での非液晶向けの売上が大きく伸長している要因は何か。下期の見通しはどうか。

A：（浅野）スマートフォン向けの部材を、新機種の立ち上げのために想定以上に出荷したことが要因として大きかった。非液晶向けの、半導体／電子部品以外のところで売上が大きく伸長した。下期は生産台数が落ち着くことにともなって、売上は 2Q よりも減少する見通しとしている。

Q：半導体／電子部品関連であるセルファ、MLCC 用バインダー樹脂の伸長はどうか。下期の見通しはどうか。

A：（浅野）セルファ、MLCC 用バインダー樹脂とも、前年対比で大幅に伸長している。下期も同等かそれ以上に伸長する計画としている。

Q：ビルドアップフィルムの状況、下期の見通しはどうか。

A：（浅野）現時点ではまだ売上規模は大きくないが、全体の需要の増加にともなう、27 年度以降での出荷増を見込んでいる。この下期は拡販に向けた開発と生産対応のための固定費の増加を計画している。

Q：【資料 P.19】モビリティ分野について。N-HPP が下期では+15%と大きく伸長する見通しとなっている。その要因は何か。

A：（浅野）上期は自動車生産台数の減少に加えて、EV に多く使われるカラー／デザイン膜で苦戦した。下期は新車種への採用が予定されており、巻き返しを期待している。HUD 膜については、上期から引き続き増加する計画としている。

Q：中間膜事業について、中国ローカルメーカーとの競合の状況、影響について補足していただきたい。

A：（浅野）中国メーカーの品質が向上していることと、中国の自動車生産台数が停滞していることによって、価格競争が大きくなってきている。当社にしか作ることのできない、より優位性の高い製品の採用活動を進めていく。

Q：航空関連部材の好調の要因は何か。

A：（浅野）航空機向けの部材は、4 月計画ではやや保守的に見ていたことがあり、想定を上回って推移している。エアモビリティ向けの部材も想定を上回って、より大きく伸長している。

Q：【資料 P.17】営業利益の増減要因分析について、売値による増益が見通しを上回った要因は何か。

A：（浅野）消費財を多く扱うインダストリアル分野において、売値の改善が進んだことが大きく寄与している。

（住宅について）

Q：【資料 P.24】M&A をした豪州 Ausbuild 社は 4Q から連結開始予定とのこと、年間ではどの程度の利益規模になる見通しか。

Ａ：（吉田）正式なクロージングを 27 年 1 月に予定しており、現時点で具体的な数字をお答えすることはできない。今後の然るべきタイミングで開示を進めていく。今年度の業績影響については、資料記載の営業利益+31 億円の大部分が Ausbuild 社によるものである。

Ｑ：【資料 P.14】住宅の ROIC には下期新規連結予定分は含まないとのこと、Ausbuild 社のアセットが大きければ ROIC が低下することになるか。今後の方向性について補足をお願いしたい。

Ａ：（吉田）Ausbuild 社の ROIC の水準から、新規連結によってカンパニーの ROIC を低下させるものとは考えていない。今後については、国内事業と同様に一定のレンジをもって管理をしていくものと考えている。

以 上